

1 A たり

NO 6

最近の世の中は、デジタル化が進むにつれ、何でも〇×の二者択一という単純化がなされているようで仕方ありません。売れるか、売れないか、儲かるか、儲からないか？儲からないものはしない。売れることならなんでもいい。そんな大人の単純化が進んでいます。これはもう、大人社会とは言えませんね。大人とは、もっと複雑な社会です。売れなくてもやらなくてはならない。儲かる部分を削っても、敢えて守らなくてはならない。その難しい〇や×の間で、日々うまくバランスをとるのが大人でしょう。大人社会はどんどん、子ども化しているとニュースは教えてくれています。

今のA組はというと、本当に子どもだなーという子と、大人の階段を上り始めた子とがごっちゃになって、ミックスジュースみたいな状態ですね。時に、そんな意識のズレで、仲たがいが起きたりしています。15分程度の教育相談を行っています。教育相談では、わたしとの話の中で、本当の自分の心に気づいたりする生徒もいます。人と話すということは、子どもにとって財産です。

子ども化する大人、大人化する子ども

梅雨がはじまると欠席者が増えてきました。その度に、誰かがやさしさ封筒にプリントを入れて運んでくれます。「昨日、〇〇の家に届けたら、元気な顔してたんだ」と、朝誰かが言っています。それを聞いているみんなは、「えーやばくね！」という判断。きっと、ズル休みしてたんだっ
ていわんばかりです。

子どもの社会は本当に単純です。

教育相談を始めるとすぐに「悩んでいることや、困っていることはない？」と聞きます。「悩んでいることなんてありません」と答える人も半分くらいいるのでしょうか。それでも、「じゃあ、勉強面で困っていることもないの」って聞いていくと、「実は、〇〇教科がわからなくて」とか「〇〇が小学校から苦手で、どうやって勉強したらいいのかわからなくて」なんて答えが返ってきたりします。

「ほら、悩みごとあったね。」と言うと、

「あ、ほんとだ！」と、びっくりするような顔。

その一方で、「人はどうして生きるのかと考えているんです。」というAくんのような生徒もいました。子どもから大人へ、心が揺れ動きながら成長するとき、人はこんな問いを自分自身に抱くものですね。

保護者の皆さんも、昔を思い出してください。自分はどのように生まれて、どのように死ぬのかという問いを、自分自身で考えたことってありませんか？わたしも、“人の死”ということについて、小学校6年生の頃から抱くようになり、時に、夜に寝るとき「このまま目があかなかったらどうなるだろう」なんて、心配になって寝むれない日が続いたものです。

思春期の今の時期だからこそ、こんな問いを自分につきついたりするんですね。これは、とってもいいことだと思っています。人は、そんな不安や悩みを誰もが抱えて、生きていく、ちょっとした旅人みたいなものなんです。その答えは、大人の今でさえ、見つけることはできません。その答えを探しながら旅をしているのが、日常なのでしょう。子どもによっては、そんな心の成長がまさに始まっているのです。Aくんには、『14歳の君へ』という本を貸しました。中学生向けの哲学書なんです。

ある女子生徒のBさんは、家での生活で、なかなか素直になれない自分を責めていました。これもわかりますね。親の一言一言に、なんだか頭にきてしまう。言っていることが、正しければ正しいほど、そう認めたくない。でも、そんな自分が決して正しいとは思わない。なんで、こんな自分になったのかって、悩んでいるんですね。

すごいですね。自分をちゃんと冷静に分析しています。本人にも、そのことを言うと、「家ではカッとなるんで、冷静でなんかありません。」ときっぱり。

中学生は、こんなドロドロした、心の中にいるんです。

でも、保護者の皆さん、忘れないでください。遠い昔のわたし達も、全く同じだったってことです。わたし達が歩んで来た道です。

昨日の道徳では“ちいちゃんのつめ”という作文を題材に考えました。内容はこうです。つめを切れと学校で指導されても切らないある女子生徒。みんなは、不良扱いして、気軽に話し掛ける友いません。でもある時、運動会でその生徒が走るときに、作者である女子生徒は、その生徒に「がんばって」と声をかけます。その生徒は、ダントツの1位でゴール。その後、「おめでとう」「ありがとう」という言葉が交わされ、だんだん心が交流していくという話です。作文の最後は、

親しみをこめて作者である女の子が、相手の生徒に「ちいちゃん」と呼ぶことにしたら、次の日、ちいちゃんは、両手を見せてくれたという結末。そこには、きれいにつめが切られている指があったという話でした。

「どうして、このちいちゃんっていう子は、つめを伸ばしていたんだろう。」って尋ねます。一同、しーん。実は、その前に、揚げ足をとる発言はするなと注意していたので、その固い雰囲気もあったのでしょう。なかなか発言がでません。

それでも、じっと待ちます。

「理由が欲しかったからかな・・・」

ぼそぼそと、勇気を出して話してくれたのは、あの女子生徒のBさんでした。

「つめを伸ばしているから、それが理由でみんなから嫌われていると思える。嫌われている理由が欲しかったんじゃないかな」と。

じゃあ、どうしてつめを切れたの

「自分には友達がいるって思えたから」と今度は別の生徒が答えてくれました。

人は、悩みを抱えた分、深く考える力がつきます。悩みを抱えた分、人の心の奥底に潜む真の本音に近づくこともできます。大人になるって、感情ではない、そんな理性的に物事を考えられることなのでしょう。

道德の最後に、こんな話をしました。

朝の会話の話です。

「1日具合が悪くて寝ていた日の夕方、級友が封筒を持ってきてくれる。みんなはどんな顔して玄関にでるだろう？」

「具合が悪い顔してでるの？」

首を横に振る生徒がいます。

「せっかく届けに来てくれた友に、どうして具合が悪そうな顔して出るだろう。みんな無理して、恥ずかしそうな笑みを浮かべながらでるんじゃないか。人はね、単純な生き物じゃないの。苦

しい時こそ、笑顔がでるし、嬉しいときこそ、泣きじゃくる。大人になるってことは、そんな心に深さがでることなんだ。」

みんな、静かに聴いてくれました。

ご意見・ご感想をお願いします。

[戻る](#)